社会貢献で事故削減

44%→24% 交通遺児を支援

ロゴ貼付しPR フラワーリボン協

【千葉】ユウキネットワークス（YNW、結城秀之社長、千葉市花見川区）は、交通遺児の社会進出を支援するフラワーリボン協会（古賀直記代表理事）を通した交通遺児支援などの社会貢献を進め、事故削減につなげている。社会貢献活動などがドライバーに自覚を芽生えさせ、日ごろの運転に効果を発揮。2018年に44%だった事故発生率が19年に30%、20年は10月時点で24%と減少傾向にある。10月からは協会のロゴを車両にデザインしており、将来的には全車への展開を目指す。（井内亨）

フラワーリボン協のロゴを大型車にデザイン

同社は、フラワーリボン協が設立された18年から入会しており、20年3月からは結城社長が専務に就任。入会当時、事故が増加傾向にある中で対策を施すものの状況が好転しなかったことや、協会に物流現場を担う会社が所属していないことなどから入会した。

10月21日には大型車に協会のロゴをデザインしたステッカーを貼付。主に大阪府・京都府と関東地方を結ぶ幹線輸送を担うが、積載する荷物や輸送ルートを固定しないことで、PR効果を増幅させる狙いだ。

結城氏は「ホームページへのアクセス数が増えるなど、効果が出ればうれしい。将来的には子供たちを集めてイベントを開くことも考えたい。まずは認知度を高めていきたい」と話す。

更に、「101%以上を常に目指す」といった思いを込め、今年作成したロゴマークについても、フラワーリボン協のロゴと同様、車両へのデザインを推進。現在、2トン車及び4トン車1台ずつにステッカーを貼付している。

こうした社会貢献活動の推進などが、ドライバーの意識改革に寄与。「交通遺児への支援を行う会社のドライバーが事故を起こしてはいけない」といった自覚を持つようになっているという。運転にも効果が表れ、保有台数に占める事故件数の割合から算出した事故発生率は減少傾向。今後、車両へのロゴ貼付を進めてPRを図るとともに、安全への取り組みも積極的に進めたい意向だ。

YNW

イディアトランスポートサービス

自主性重視で品質維持

DR デジタコ「あえて見ない」事故抑止

【栃木】イディアトランスポートサービス（山下周吾社長、宇都宮市）は、社員自らプロセスを考える会社運営を基本に、社員のやる気を引き出している。山下社長の人事や経理畑での経験を生かした手法で、ゴールのみを会社が設定し、そこに至る方法は社員が選ぶ。社員が自主的に動くことにより、荷主から求められている高い品質をクリアしている。

主な荷物は飲料で、荷主の工場での構内作業も請け負う。ペットボトル原料やペットボトルも扱っている。山下氏は「人の口に入るものを扱っているため、荷主からは高い品質を求められる」と話す。荷主からの期待に応えるため、山下氏が実践したのが社員自らプロセスを考える会社運営だ。

例えば、洗車で高圧洗浄機が必要との声が上がれば、どのメーカーのものがいいかをドライバー自身が検討して見積書を用意する。以前はこまめにやる社員とそうでない社員がいたが、ドライバー同士で話し合い、全員が納得して洗車をするようになったという。

ドライブレコーダーとデジタルタコグラフを全車に導入しており、リアルタイムで状況を確認できるが、自主性を尊重するため、あえて見ていない。「事故が起きたら見るとドライバーに伝えている。それが抑止力になる」（山下氏）

自分の仕事がどのように給与に反映されるか意識してもらう工夫も凝らす。燃費をチェックするため、毎日ドライバーが手書きで表を作成。自分でその日の運行を振り返る機会をつくっている。

主な荷物は飲料で、荷主の工場での構内作業も請け負う

自主性は業務以外にも生かされている。飲み会などはドライバーが計画し、会社に提案すると会社から補助が出る。山下氏は「ドライバー同士がしゃべり続けてなかなか帰らない。社員同士の仲はいい」と話す。

山下氏は2015年に社長に就任。元々は人材派遣・紹介を手掛ける親会社のイディアコーポレーションで経理や人事畑を歩んでいた。「運送のことをよく知らない自分が何でも決めたら社員は納得しないだろう。自らも勉強しながら社員の自主性を育み、荷主の求める品質を提供していきたい」（伊代野輝）

千葉トラック協3支部/合同講習

事故防止&コロナ対策

【千葉】千葉県トラック協会の印旛（清宮鉄夫支部長）、香取（飯田功支部長）、銚子（大里忠弘支部長）の各支部は14日、経営者向けの合同講習会を開き、交通事故防止と新型コロナウイルス感染対策について学んだ。例年より参加者の上限人数を限定したほか、フェースシールドを参加者に配布するなど、新型コロナ感染対策を徹底した上で行った。

印旛支部の清宮支部長が「新型コロナの影響で荷主企業の休業や操業停止が増え、輸送量の大幅な減少によって事業経営に大きな影響を及ぼしている。しかし、我々、トラック運送業界が社会にとってエッセンシャルな事業であることを広く認識していただき、県民の皆さまから応援していただけるよう行動していくことが何より大切」と3支部を代表してあいさつ。続けて、千葉県トラック協会の高安茂専務が業界の動向や協会の事業などについて説明した。

講習では、総合保険事務所の鈴木武光社長が「交通事故防止、安全対策の確立～交通事故から組織を守る」、千葉診療所健康管理部の川島悠医師が「コロナ禍における企業対応」と題して講話。事故防止と新型コロナ対応の観点から、事業継続に役立てようと聴講者は耳を傾けた。最後に、銚子支部の大里支部長があいさつし、閉会した。（井内亨）

根本理事長が留任 JL千葉

【千葉】協同組合ネットワーク千葉（JL千葉）は14日開いた総会で、任期満了に伴う役員改選を行い、根本勝雄理事長（70、根本運送）の留任を決めた。副理事長の木内弘樹氏（山伝運送）が退任し、今関光男専務（IMA EXPRESS）が副理事長に昇任。渡辺茂副理事長（渡辺運送）は留任した。

このほか、専務には多田和美氏（水郷運輸）が、監事には長谷川清理事が、それぞれ就任。今関進氏（山三運輸）は理事に就いた。

根本理事長は「成田エリアでは新型コロナウイルスの影響で航空貨物が壊滅状態となっている。皆さんは空港周辺部で事業を営み、多少なりとも影響を受けていると思う。ピンチをチャンスにできるよう、組合としても設立当初の思いに立ち返って組合事業に努めていきたい」とあいさつ。

続けて「最近は新型コロナで残業代未払いなどの話題が少なくなっている。21年度は労働会を行いたい」

総会で、9月～20年9月の決算報告や21年度の予算を認。決算は509万円の処分利益を計上して34万円を備金などに積み次期繰越利益は1218万円。21年度はワークシェアリングKITによる業務拡大などの拡大は14日に了。根本理事長は「成田エリアでは新型コロナウイルスの影響で航空貨物が壊滅状態となっている。皆さんは空港周辺部で事業を営み、多少なりとも影響を受けている。ピンチをチャンスにできるよう、組合としても設立当初の思いに立ち返って組合事業に努めていきたい」とあいさつ。

続けて「最近は新型コロナで残業代未払いなどの話題が少なくなっている。21年度は労働会を行いたい」

総会で、9月～20年9月の決算報告や21年度の予算を認。決算は509万円の処分利益を計上して34万円を備金などに積み次期繰越利益は1218万円。21年度はワークシェアリングKITによる業務拡大などの拡大は14日に了。根本理事長は「成田エリアでは新型コロナウイルスの影響で航空貨物が壊滅状態となっている。皆さんは空港周辺部で事業を営み、多少なりとも影響を受けて

市と災害時協定締結

群ト協安中支部 救援物資を

【群馬】群馬県トラック協会の安中支部（梶山勝日孫支部長）は16日、安中市と「災害時における物資等の輸送、一時保管及び仕分け等に関する協定」を結んだ。災害が発生した際、市の要請に基づいて救援物資の輸送、集配拠点における入出庫や効率的な保管ノウハウの提供といった協力業務を実施する。

同日、安式が開かれは「今春にをようやく案を受けている。

マルトウ

運転「困った記憶ない」

清水竜也さん 伊藤壮さん 大型免許の取得めざす

【群馬】石島運輸倉庫（石島久司社長、群馬県太田市）を中核企業とするアイ・リンクグループのマルトウ（沢田豊社長、高崎市）は、ダイバーシティー（多様性）経営を推進している。中国にルーツを持つ伊藤壮（50）、清水竜也（43）の両氏はドライバーを務め、同僚のサポートを受けながら日々奮闘。沢田社長は「我がグループは、多様な人材の採用そして育成により一層、注力していく」と力を込める。

8月に入社した伊藤さんは内モンゴル自治区出身。県内の専門学校を卒業した後、製造業に勤務し、現在は業に乗務し、を担っている。

「時間を」に加え、本の文化は話す。「入や配送ルーなど、懸切けた。仲間いるので、も頑張ろう調。今後はみつつ、大目指したい

清水さんで、来日後作業などの た。同社には